DIARIO No 2319 S. Paulo, 26 de OUTUBRO de 1940 NOTICIAS DO BRASIL Redacção e Administração Rua Fagundes, 196 - Caixa, M

伯剌西爾日報
Prevê-se em Moscou a assignatura de um pacto com o Japão,
社長 石射猪太郎 Director M Sameshima
編輯局 一ケ年 六十斜 三十斜 半ケ年
廣告は御電話又は御返信次第御伺ひ
發行所 伯剌西爾時報社 電話 七-四六〇七

珈琲 サントス四級 十キロ 一二、六〇〇
爲替 對日 四、六六五 對郷里金 五、八一〇 對米 一九、七七〇 對英 八〇、〇五〇

建川新大使を迎へ 日ソ不可侵條約の成立見んと會見

廿六日 建川大使・スターリンと會見

英政界に異常な衝撃

【ロンドン廿三日同盟】廿三日當地で傍受したドイツ放送は

スターリン書記長は來る廿六日、クレムリン宮で建川新駐ソ大使を迎へ、會見する事となつた、近く極東に於ける日ソ兩國の綜合利害を擁護すべき、日ソ協定が成立するであらう

と報じ、英政界に多大の衝動を與へた、右に關し、當地消息筋ではスターリンが日本外交官と直接會見する事は、嘗てなかつた點を指摘すると共に、日本は南方アジアで地位を强化する事を希望してゐるし、一方ソ聯も近東に力を集中すべく極東に於ける完全なる安定を希望してゐるから、右ドイツ放送は、恐らく正確を得たものであらう、と述べてゐる

英の地中海政策 獨逸外務當局語る 完全に失敗

【ベルリン廿四日同盟】佛、スペイン國境で行はれたヒットラー總統とフランコ統領との歴史的會見に關し、獨外務當局では廿四日左の如く語つた

ドイツ、スペイン兩國はスペイン內亂勃發以來事實上血盟の緊密な關係が結ばれてをり、新興スペインが獨伊の建設しつゝある歐洲新秩序に對し、積極的關心を懷いてゐる事は固より當然である、殊にスネル・スペイン外相の獨伊首都訪問以來、スペインの態度が決定され、獨伊南國の政策に對するスペインの傳統的要求に對し共感と協力を惜しむものでない、地中海に紛爭を持ち込んで、地中海諸國を相反目せしめんとする英國の地中海政策が今回の獨逸スペイン會談に依つて完全に失敗に終つた事は最近英國のスペインに對する動向に於ても明かであり、その差し止めが形式を變へた事實上の禁輸である事は明らかで、最近の機會にて、更に嚴重に物資に對する同樣の措置が行はれるものと豫想される、尤も石油は歐洲所有であるだけに、同樣手段による禁輸は困難と見られるが、獨逸は此に事實上禁輸の狀態にある、情勢かくなつた上は究く中歐米諸國も、これに續いて同樣の歩調に出るも已むを得ないものと觀られてゐる

歐洲新秩序建設にスペインも重大役割

マドリッド消息筋の觀測

【マドリッド廿四日同盟】當地消息筋では、今回のドイツ・スペイン兩巨頭會見は、來るべき重大なる發展に關途を開いたものと觀ふべく、英國をして獨伊樞軸の計畫に對し共感と協力を惜しむものでない、地中海に紛爭を持ち込んで、地中海諸國を

せんとする獨伊樞軸の計畫にスペインもフランス同樣重要な役割を演ずる事になつたと

メキシコ重要物資を對日禁輸

▽……米との共同歩調が表面化

【メキシコ市廿四日同盟】メキシコの重要物資對日禁輸に關する米國との共同歩調は、愈々表面化し、國に司法上の手續きで水銀の輸出差止めが行はれたが、廿四日更に日本向け雲石、アンチモニーの輸出に對しても同樣司法上の手續きで差止め命が發せられた、而も雲石は產出鑛山も明かであり、既に輸出許可を得たものであつて、その差し止めが形式を變へた事實上の禁輸である事は明らかで、最近の機會にて、更に嚴重に物資に對する同樣の措置が行はれるものと豫想される、尤も石油は歐洲所有であるだけに、同樣手段による禁輸は困難と見られるが、獨逸は此に事實上禁輸の狀態にある、情勢かくなつた上は究く中歐米諸國も、これに續いて同樣の歩調に出るも已むを得ないものと觀られてゐる

日佛印交渉に一抹の暗影

ドクー總督親日方針と佛財閥間に意見對立

【ハノイ廿五日同盟】廿五日、佛印經濟交渉に關し、當地消息筋では、スターリンが日本外交官と直接會見する事は、嘗てなかつた點を指摘すると共に、日本は南方アジアで地位を强化する事を希望してゐるし、一方ソ聯も近東に力を集中すべく極東に於ける完全なる安定を希望してゐるから、右ドイツ放送は、恐らく正確を得たものであらう、と述べてゐる

スペインに好餌與へジブラルタル攻撃に援助要請か

英國側有力筋の觀測

【倫敦二十四日同盟】英政府 獨伊 獨スペイ 兩首談の成行きを深甚の關心を以つて見凝つて居りロンドンには會談の內容を推測する各種の情報が亂れ飛んでゐるが、右に關する次の如き觀測を下してゐる

一、ヒットラー總統が、先づラバール佛副首相と會見次でフランコ・スペイン統領と會談した點より考へて、獨逸はフランスの犧牲に於て何ものかスペインに餌を與へたものと見られ、それは恐らく佛領モロッコの對スペイン割讓であらうと推測される

一、獨逸はこれに對して、スペインに對英參戰か、或ひはジブラルタル攻撃の爲め獨軍隊のスペイン通過援助を要求してゐるのではないかと見られる

一、然してこのジブラルタル攻撃はジュラチアーニ殿下の伊軍のエジプト進攻及び獨側のバルカン、シリアへの進攻と同時に二面に開始されるであらう、これはヒットラー總統が對英上陸作戰に代へんとする三大方向であると見られる

一、其の際ヒットラー總統は佛軍隊の武裝し難いのを知つてゐるから、强ひてフランスに對し英宣戰を求める必要はないが、ヒットラー總統として現在フランスから利用し得るものは、其の植民地であり、獨逸は休戰協定の更改すべき新たな諸歩をフランスに迫りフランスの手に殘された艦隊及び空軍の獨逸への引き渡しを要求するに至るやも保し難い、佛艦隊の大部分は英領諸港に於て解除されかゝつてゐるが、然し未だ相當多數の艦艇が其の手に殘されており、若しこれが獨伊側に引き渡されるならば、著しい增强を見る事とならう

法幣愈よ斷末魔 聯銀券一本建の逸走

英當局も法幣否認

【天津廿五日同盟】反動的傾向にある法幣の墜勢愈々顯著となりつゝあるので、英租界工部局及び總領事館では當面の措置として公租、公科の收納は、當日に於ける最高價格貨幣納入制をとる事とし本月一日より實施事實上法幣否認の態度をとつたが、最近又亦これを聯銀券一本建に變更する再公示し、既に數日前より實施するに到つた右措置は租界に殘存する無法幣の回收に拍車をかけるものと云ふべく、一方に於て聯銀券の强制性を英國自ら認めた結果と觀られてゐる

在英邦人引揚に關し英より逆の申入れ

伏見丸出帆遲れる

【ロンドン廿四日同盟】帝國大使館では、過般在英邦人の總引揚げに關し、文書を以て英外務省に出國査証供與、並びに荷物檢閲の取扱事務促進を申入れたが、廿四日英外務省は、文書を以て回答を寄せ、日本在住英人の引揚げに關し、日本政府も同樣の便宜供與を約され度しと、逆に我が方に對する保證を要求するの態度に出たので、計らずも本交涉は暗礁に乘り上げ、交涉成立には今後多少の曲折があるものと見られてゐる、尚郵船伏見丸は引揚げ邦人をのせ、十一月初旬エールの某港を出帆、歸國の途に就く筈であつたが、右の如く英國側の慫慂要求による交涉停滯のため、出帆は遲延の余儀なきに至るものと見られてゐる

三井物產 ハノイに出張所新設

西貢に出張

東京廿五日同盟】三井物產及び西貢に出張所を新設の件を附議決定した

駐上海米海軍 婦女子其他米本國へ引揚

十一月中旬まで完了豫定

【上海廿四日同盟】在上海米國海軍當局は廿四日、米國正規兵並びにマリンで雇傭してゐる全使用人及び婦女子を十一月中旬までに引揚げを完了せしめる旨、發表した

總引揚人員 四千名

【上海廿四日同盟】上海駐在米國海軍當局は、廿四日の夕刻マリンで雇傭してゐる使用人並に婦女子を乘せ、第二班の二百廿名は十一月一日上海引揚人員は合計千八百名である、尚は支那に於ける上海以外の二港並に日本よりの引揚げ人員を合すれば四千名と推算されてゐる

引揚げ第一班の婦女子六十名は、廿四日夜佛ニクーリッジ號に乘船マニラに向つた、第二班の二百廿名は十一月一日上海米國海軍當局は、廿四日の夕刻マリンで雇傭してゐる使用人並に婦女子を乘せ、第

モントレー號で、又殘りの人員は十一月十五日までに上海入港のピース號、タフト號等で一路米本國に引揚げる筈、尚上海の引揚げ米人は合計千八百名である

獨、伊、ソル四國代表がドナウ河問題を協議

【モスクワ二十四日同盟】ソ聯外務人民委員會は二十四日ドナウ河流域の諸問題協議の爲め、來る十月二十八日、ブカレストに於てソ、獨、伊、ルーマニア四國代表が會同する事になつたと發表した、尚ソ聯政府は既に右會議に派遣すべき代表の任命を了したが到着してない

日本政府は、北太平洋に於けるオットセイの漁獵に重大の脅威を與へてる事實上に鑑み、現行條約に規定された事態を、これ以上繼續し得ないと認明すると同時に、オットセイ保護の爲め條約更改の開催となるべき新たな原則に到達し度旨强調してゐる日本の廢業通告は、完全に條約の條文に從つたものであり、日本政府が新條約の締結を申入れてゐる以上、問題は極めて平和裡に解決し得る希望がある

オットセイ條約廢棄問題 解決に曙光見ゆ

【華府二十四日同盟】オットセイ條約廢棄問題に就て、米國々務省當局は未だ文書に依る正式申入れは到着してゐないが日本側の一部政府關係者間の線に沿つて解決される見込みがあるやうに見える旨を、オヅ〳〵と語つた、尚ホワイトハウスに於ては、今回の日本外務省の口頭に依る通告に關する日本外務省の申入れは、既に駐日米大使館より報告があつたが、文書に依る正式通告は未だ到着してゐない

獨、伊、ソル 四國代表がドナウ河問題を協議

【モスクワ二十四日同盟】ソ聯外務人民委員會は二十四日ドナウ河流域の諸問題協議の爲め、來る十月二十八日、ブカレストに於てソ、獨、伊、ルーマニア四國代表が會同する事になつたと發表した、尚ソ聯政府は既に右會議に派遣すべき代表の任命を了した

金融と各事業部門 併存置は不合理

全國金融協議會の意向

【東京廿五日同盟】滿鮮の全國金融協議會役員會では、金融各般の改善を圖るため、金融改善に關する特別委員會を設置する事になつてゐたがこの程右特別委員として津島一氏以下十一名が決定した

北支の貨幣戰 我に擧がる凱歌

支那の暗雲

巨人ヒットラーの日論む歐洲制覇の偉業は着々確實に進んでゐる。今回の對佛、西南國との協定內容と成果に就て未だ發表されないが外電所報を綜合觀察して右協議が順調にヒットラーの意圖に向つて運捗してゐることは想像に難くない。▲首相の機關紙ポポロ・デ・イタリヤ紙は、過般プレンネルで行はれたヒットラームッソリーニ會談內容を次の如く發表した。

一、英本土を空軍により包圍攻撃すること

二、潛水艦による英本土封鎖

三、印度航路の妨害攻撃

四、極東問題

五、電撃的外交策戰

六、全體主義陣營の强化

七、全歐洲の改造

八、スペインとの相互援助

九、ソ聯との接近緩和

右協定プランの大部分は既に實行中であり殘されたスペインとの協定は著々成立に近づいた。對ソ接近工作も英國其他の關心の激動を挑して先づ良好の關係を維持せんとするも建川大使を迎へて成立可能性に充分の信用が置かれるやうになつた。次に行はんとするものは日獨伊と佛西ソの六ケ國同盟であらうが、これも勢力の對立から、いまだ急速には實現の運びに至らざる模樣である、從つてドクー總督は大局的見地より日獨伊樞軸の線に沿つて、日本の東亞新秩序建設に協力する意向を持つてゐる如くである、それが夙く知つて事務當局や財閥から孤立して經濟專門家たる經濟交涉委員に推されてゐる現狀である

上海爲替

【上海二十五日同盟】當替相場 對英三月十六の十三、對米五弗八の七、對紫六十五円八の七賣り、六十六円八の一買ひ

綿布相場

【東京二十五日同盟】六三〇、六二〇、五四〇、三〇〇、七一〇

あばれ大名

（二百三十七）

（とくろ船）

江戸で（二ノ一）

久我荘多郎

【讃岐守賴明に御不審の廉は屋敷兵衛といふ。御存知ござらぬ。來その儘土ちに、密貿易賊を匿ひ置るといふお疑ひであるが……お返事は如何か？」

玻璃鏡にかけるやうに、そのお目は、ぢいと賴明の、青れの心は、すつかり疑付いてしまつたのである

（これなれば、言ひ遁れる筈だらう）

さう思つた

「雨崎屋儀兵衛」などと、一向に覺えのない名であるが……」

「御存知ないといはれるか」

「如何にも……」

ユッタリと、頷くことが出來た。思相は、なはその顏を見つめながら

「聽れてお驚いたすが、密貿易賊を匿ひ置る事實なく、また、雨崎屋儀兵衛など申す者は、御存知ないといはれるのだな？」

「——くどいッ」

と、まるで拔き討ちをかけるやうに、いきなり賴明は、癇癪をつのらした聲になつた。心が落付くと、大名特前の傲慢さが出たので、計らずも本交

じてゐた

「——？」

賴明は、思相の言葉の意のあるところを測り兼て、たゞ聲をのむばかりである。そして、それは、海の上げかりでなく、陸に棲むすべての獸の罷までを、戰慄させる驚愕の暴風であつたのだ

その一つ——

由比周馬を船目付として、大阪へ遣つたのも、その一つだつた。

讃岐高松の內紛をさぐつた由比周馬からは、思相の手許へ急飛脚が屆いてゐる。だが、禁破りの大罪を犯すことがあらうとするのであるが……非凡なこの名奉行は、將軍家でさへ大事である。しかし、いへ一日置いてゐる親藩のあるまじを、どう裁かうといふのであらうか？

「——役目なれば、言葉を改めまする」

と、しづかに言ひ放つて、辭に屆けられてゐる一書には膝をすゝめた思相は、ほゝ愕然と見る眼の傲のやうに、威儀をある。その密貿易賊の件まで明瞭いたしをるが——雨崎

天皇陛下

御微恙に亘らせらる

【東京二十五日同盟】天皇陛下には、昨二十四日夕來御風氣の御模樣に亘らせられ時局御多端の折から御無理を避ばされぬ樣側近から御靜養を御願ひ申上げ、二十五日の彰常王殿下宮薨御降下に就き、勅語並びに爵記を賜ふ儀は宮相が勅命により傳達奉行、御陪食は御延期になつた　尙御容體は極めて御輕微に亘らせられるので、日ならずして御全快の御模樣に承はる。

眠れ！軍馬の靈

第三回慰靈祭行ふ

【東京廿五日同盟】今次事變に出動、大陸の戰野に散つた戰役軍馬の靈を慰める第三回軍馬慰靈祭は廿四日東京靖國神社境内に於て陸軍主催の下に擧行された、御陸軍では殊勳馬二百四頭に對し、第四回目の行賞を授與したが、この中には蘆溝で御戰死遊ばされた故北白川宮永久王殿下の御愛馬光榮號、松井石根大將が南京入城當時の乘馬岩澤號も含まれてゐる

株式市況

【東京廿五日同盟】株式市況は概して一ドル內外安に大引けた、歐洲に於る樞軸國側の活潑なる動きに對し警戒氣分濃厚で、軌拠な利喰ひを誘發してゐた、尤も賣り急ぎの態度は見られなかつた、一方ウオール街では、商工界の情報及び人氣の動向は依然良好であると觀てゐる

噫！イ號第六七潜水艦

實戰訓練中行衞不明

遭難二ケ月後公表さる

【東京廿五日同盟】本艦八月廿九日イ號第六十七潜水艦は東京灣南方海面に於て折柄の颱風を冒し艦隊の實戰的猛訓練に從事しつゝあつた處、突如消息を斷ち、爾來遭難、乘員全部殉職と認めざるを得ないので、海軍省は遭難乘員の殉職認定を下すと共に廿六日これが遭難事實を公表した

今回の遭難事件は今次事變の戰場に直接參加せず、甚だしい戰功を樹てる機會にも惠まれなかつた潜水艦が、將來戰に備へて如何に日夜困難なる猛訓練に從事しつゝあるかの事實を如實に示すものであつて、イ號第六七潜水艦の殉職者は左の如くである

艦長少佐　中川浩
機關長大尉　小林正雄
航海長大尉　奥島司令、大畑艦長以下全乘員
（以上遭難當時艦中に在り）

脅き礎石

【東京廿五日同盟】去る十三日一齊に行動を開始し、北部大行山脈の進擊中の井出、山崎、永松、北野の各部隊は二十三日昜縣東方約六十キロ中家谷附近で感激の握手を交し、直ちに反轉して滏縣を征服しつゝ敵を追擊、一方東方より進擊中の吉井、新井、山村、櫻井の各部隊も居に先だち良鄕西方七十キロ北庄へ包圍陣を壓縮し、同地附近にある敵の各軍事施設を破壞撤退中、進擊開始以來二十四日迄に判明せる戰果左の如し

敵遺棄死體四六、捕虜二十、鹵獲品小銃二〇、銃劍八五九、軍服一、六〇〇組竹八百、其他多數

大行山脈に殲滅の陣

壯烈！

土浦市（茨城縣）の誕生

土浦、荒鍋兩町合併さる

【東京二十五日同盟】內務省では、來る十一月三日より茨城縣新治郡土浦町と荒鍋町を合併し、土浦市を設置する旨二十五日發表した　これで全國の市數は百七十となる

十七潜水艦の悲壯なる運命こそ、太平洋に於る將來戰への尊き礎石と云ふべきであらう

「孫科復歸」の聲に

躍り上つた容共派

歡迎大會開き氣焰擧ぐ

【香港十五日同盟】重慶來電に依れば孫科の政界復歸と同時に一時過去してゐた親ソ聯共派が再び擡頭し來り、ソ支文化協會を中心に連日來活潑な動きをしてゐる、同協會は廿三日孫科歡迎大會を開催ソ聯大使パナウテイキン氏を初め、馮玉祥、周恩來、譽外交協會の幹部全會員出席し、支ソ親善關係の增進を希望した

支部構成の原案

常任總務會に附議

大政翼贊會の地方組織

【東京廿五日同盟】各紙所報大政翼贊會の地方組織については有馬事務總長より地方長官に委囑して、地方支部常務委員の經驗に參酌する一方、中央本部事務局に於て支部構成の具體案を急いでゐたが、廿四日午後首相官邸で開かれた事務局々長會議で成案を得たので、これを支部構成に關する事務局原案として廿五日の常任總務會に提案決定する事となつた、右原案に依れば道府縣支部は事務局との協力會議を以つて構成し、事務局は庶務、組織の兩部に分ち、支部長は當分の間これを置かず、常任委員をしてその職能を代行せしめる他、直接の執行機關として理事若干名を置き、又中央に顧問若干名を置く事にした。

恐懼訂正

昨二十四日發行の本紙二面六段に揭載せる「東京二十四日同盟記事」の見出に「陛下に御誤解仰付られ」と誤記せる記事を「と直々御叱責」と訂正まで若干枚數を印刷、既に配付せるは恐懼に堪へざる次第にて茲に訂正いたします

超短波

定例閣議

廿五日午前十時廿五分

電力制限實施

減水に依り東京十万キロ、大阪四十万キロ、計五十万キロの電力不足を來したので、來る卅日より東京、大阪兩市と共に一割の制限を實施する事になつた

産組聯合會

產業組合、購買組合を打つて一丸とした產業組合聯合會では廿五日午前十時より總會を催し、理事長に千石氏を推薦したが千石氏は理事長就任を國民生活の必需品たる本誌の廣告について協議した

經濟閣僚懇談會

經濟閣僚懇談會は廿五日午後一時三十分より開會

東久邇宮彰常王殿下

臣籍に御降下遊さる

「栗田」の御家名を賜ふ

【東京二十五日同盟】東久邇宮第三王子彰常王殿下には二十五日の吉辰に當らせられ天皇陛下より榮ある御家名栗田の姓を賜はり侯爵を授けられ、御目出度臣籍に御降下、御かしづき一家を御創立遊ばされたこの吉日殿下には陸軍少尉に御任官遊ばされたが、御軍裝の儘宮中三殿下に參進、御神前に於て御親告遊ばされた後、御祖父東久邇宮稔彥王殿下、御父君盛厚王殿下、御母君俔子妃殿下に謁を賜ひ、次いで高松宮殿下、三笠宮殿下、秩父宮殿下、高松宮妃殿下、三笠宮妃殿下、秩父宮妃殿下に謁を賜ひ、更に殿下には栗田侯爵と成らせられ、舉ある御一家を御前に召され、御祖父君稔彥王殿下より左の如く勅語を賜はつた

「今日より汝は臣籍に降下して栗田と稱すべし、朕汝が誠忠を以て朕を輔翼し、朕が信賴に應へんことを期す」

次いで彰常王殿下には御父君盛厚王殿下より左の如く勅語を賜はつた

「今日より汝は臣籍に降下して栗田と稱すべし、汝能く朕が意を體して誠忠を以て朕を輔翼し、朕が信賴に應へんことを期せよ」

次いで彰常王殿下には御祖父稔彥王殿下より左の如く勅語を賜はつた

「今日より汝は臣籍に降下して栗田と稱すべし、汝能く朕が意を體して誠忠を以て朕を輔翼し、朕が信賴に應へんことを期せよ

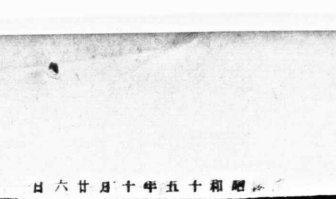
紀元二千六百年 奉祝體育大會

愈々廿七日開幕

我等の陸上六代表

こたへよ輿望に

東京三十五日發同盟通信】神宮外苑、芝公園その他の水泳場のプールに幕を張つた十五日のグランドに飛び出して力の限り試みた（寫眞は我等の選手が快適の初練習を終り、同日午後から神宮始めて午前十時半から瀛洲國陸上代表隊）



Redação - Rua Fagundes, 196
Telephone 7-4670
Caixa Postal, H
Director M. Samesima

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno .... 60$000
„ Semestre. ... 30$000
Numero de dia .... 300 reis
Gerente S. Kuroishi
Redator-chefe M. Yendo

ANNO XXIII — S. PAULO — SABBADO 26 de OUTUBRO de 1940 — DIARIO No. 2319

Edição Brasileira

Traducção dos artigos principaes em lingua japoneza

Havaí e suas aspirações

Cem mil cidadãos norte-americanos de Havai estão impedidos de votar nas eleições estadunidenses de 5 de novembro próximo, só porque são residentes do território de Havai.

Este anomalia, na vida politica dos Estados Unidos, é apenas um dos problemas que interessam a milhares de norte-americanos patriotas, que suportam, com entusiasmo, todos os fardos e deveres da cidadania, sendo entretanto, como que punidos por um governo para cuja manutenção contribuem, mais em taxas, por ano, do que quatorze unidades da federação norte-americana.

«E' óbvio que uma comunidade como a de Havai industriosa, próspera e progressista, não se mostrará contente por longo tempo, se tiver de ficar em posição de subordinada, em confronto com outras partes da nação» — declarou uma junta mista do Senado e da Câmara de Washington depois de visitar o referido território, em 1937. «E' difícil conceber — prosegue o relatório — que os Estados Unidos, que se batem pelo principio do governo próprio e da igualdade de tratamento para com os cidadãos, desejam no futuro, impor qualquer restrição á medida que deverá dar governo proprio ao povo de Havai».

O povo havaiano, ao que diz a citada junta parlamentar, não gostará de ser conservado em «posição de subordinado». Pede que lhe seja outorgada a qualidade de unidade da federação estrelada. O próximo ato, na campanha de emancipação de Havai, que dura já quarenta e dois anos se verificará a 5 de novembro vindouro, quando os seus cidadãos irão ás urnas, em plebiscito especial, para responder a esta pergunta, apresentada pelo congresso de Washington: — «E a favor da concessão de categoria de Estado ao território de Havai?» Qualquer pessoa há de pensar, naturalmente que quarenta e dois anos de espera, para a consecução de tal categoria deveriam constituir prova bastante dos sentimentos daquele povo. Mas o congresso ainda não se mostra muito convencido quanto a isso.

Havai reconhece que a inclusão de um novo Estado, que seria o de numero 49, na União Norte-Americana é tarefa de consideravel importancia e está disposta a satisfazer todas as exigências que se lhe fizerem. Dai a razão do plebiscito, que determinará se o povo quer mesmo uma coisa que está pedindo a mais de quatro dezenas de anos.

Os esforços de Havai, no sentido de tornar-se Estado, e de deixar de ser portanto, mero «território», não são coisa nova — a remontam a muito mais dos quarenta e dois anos mencionados. Franklin Pierce assumia o poder, como 14.º presidente dos Estados Unidos — Chicago e Nova York uniam-se pela primeira vez por estrada de ferro — e o Congresso completava a compra de Gadsen — quando o primeiro movimento emancipador de Havai foi lançado. Isto ocorreu em 1853, quando Havai ainda era monarquia.

A esse tempo, as negociações, para fazer de Havai um Estado norte-americano progrediram tanto, que se elaborou um tratado para a respeito da anexação de Havai á republica na qualidade de Estado. A morte subita do rei Kamehameha III introduziu uma pausa nas negociações, porque o seu, sucessor deixou que as oportunidades passassem em branco.

A monarquia independente de Havai prosseguiu até 1893, quando foi derrubada. O novo governo local enviou imediatamente seus representantes a Washington, a fim de negociar a passagem de Havai para a União Norte-Americana. Só em 1898, depois da formação da republica de Havai, é que Havai passou para o dominio de Washington, na qualidade de «território» não de Estado. Não obstante, os cidadãos daquela pequena republica cederam a sua soberania e suas propriedades publicas ao governo dos Estados Unidos na certeza de que a situação de «território» constituia apenas uma tradição formal para a qualidade de unidade da federação de Tio Sam.

O povo de Havai ainda espera que a transição formal se conclua. Vezes e vezes seguidas, a legislatura territorial tem requerido, ao congresso de Washington, a votação de um ato que lhe dê a qualidade de Estado a Havai. Começando em 1903, as petições foram remetidas ao congresso referido em 1911, em 1913, em 1915, em 1917, em 1919, em 1927, em 1931, em 1933, em 1937 e em 1939.

Em 1937, uma junta do congresso norte-americano determinou que se realizasse o plebiscito de Havai, especialmente para avaliação do sentimento popular. Este plebiscito é considerado, pelo havaianos «o problema mais importante que jamais se apresentou ao Territorio».

«Não ha base logica, nem moral, nem legal, para distinções de qualquer tipo, contra o territorio de Havai e a favor de qualquer outro Estado da União Norte-Americana» — declarou Samuel Wilder King, unico delegado de Havai (mas sem voto), perante o congresso norte-americano. Seus cidadãos são cidadãos norte-americanos. Eles suportam todos os encargos, e teem portanto, direito a todos os beneficios. O territorio é parte inseparavel dos Estados Unidos. Tornou-se parte dos Estados Unidos como resultado de um ato voluntário que praticou como Estado soberano, transferiu suas propriedades publicas aos Estados Unidos, e colocou a sua antiga Soberania sob a guarda de um tratado que lhe prometia a qualidade de parte integrante da republica norte-americana. Como cidadãos da patria commum, pedimos e esperamos, por ato de simples justiça que nos concedam tratamento igual ao outorgado aos Estados da União».

* * *

Havai deseja obter outros direitos sem duvida, que poderá reclamar, assim que lhe seja concedida a qualidade de Estado da federação.

A taxação, sem representação no congresso, será eliminada. A lei organica do congresso, que governa o territorio, será substituida por uma constituição estadual. Por ora a lei orgânica pode ser emendada, ou reformada, pelo congresso, sem consulta ao povo do território; a constituição estadual não está sujeita a essas condições. Dois senadores e um deputado serão enviados, por Havai ao congresso, substituindo o atual delegado sem direito de voto. Os cidadãos poderão tomar parte nas eleições nacionais e elegar seus chefes administrativos e executivos, que agora são nomeados pela Casa Branca. Daí por diante, Havai não poderá mais ser esquecida, na distribuição dos dinheiros nacionais para obras publicas.

O povo de Havai, acredita que a sua pretensão é justificada, além de manifestar o desejo de ser «Estado» da União Norte-Americana, prova que satisfaz as indispensaveis condições de qualificação.

Com efeito, Havai com a sua renda total de 425.203.000 dólares, por ano se situa bem acima de dez ou mais Estados norte-americanos. As compras de Havai, em mercadorias norte-americanas, em 1929, subiram a 101.817.230. Como mercado para os produtos norte-americanos, Havai, hoje, só é superado nas suas aquisições por quatro nações extrangeiras. — o Reino Unido (Inglaterra), o Canada, o Japão e a França. (A situação da França, daqui por diante, parece que tende a declinar em consequencia dos ultimos acontecimentos europeus).

O ponto de vista do pagamento de taxas e impostos, ao governo central a situação de Havai tambem favorece a sua aspiração a Estado. A contribuição, em taxas e impostos, de Havai, em 1939, pago ao departamento federal das rendas internas, foi de 11.863.768,67 dólares. Isto é, mais do que os pagamentos feitos por Dakota do Norte, Dakota do Sul, Wyoming, New México, Nevada, Idaho, Vermont, Arizona, Montana, Mississipp, New Hampshire, Arkansas, Utah e Carolina do Sul. Havai tem pago ao tesouro norte-americano, cerca de 150.000.000 de dólares a mais do que recebeu em obras publicas e outras serviços, da parte do governo central de Washington.

PREVÊ-SE EM MOSCOU A ASSIGNATURA DE UM PACTO COM O JAPÃO

MOSCOU, 24 (Domei) — Antecipa-se em circulos diplomaticos fidedignos a assignatura, para breve, do pacto de não aggressão russo-japonez, aguardado e aconselhado pelo eixo Roma-Berlim.

Espera-se que as negociações finaes a ter pelo constituam uma das primeiras gestões de novo embaixador japonez nesta capital, general Yoshi Tatekawa o qual chegou hontem a esta cidade, afim de assumir as suas funcções.

Expressa-se nos mesmos circulos, que as conversações desenvolver-se-ão em uma atmosphera de cordialidade pouco commum nas relações soviético-japonezas nestes ultimos annos.

Accrescenta-se que uma vez concluido o pacto em questão, tal facto não significará nenhuma mudança na politica externa dos Soviets, lembrando-se que o Kremlin havia proposto ha muito tempo a conclusão de um accôrdo com Tokio, de natureza semelhante aos assignados com outros paizes, inclusive com a Allemanha e a Italia.

TOKIO, 24 (Domei) — Os circulos nipponicos interpretam as noticias de que a Russia e o Japão talvez procedam, proximamente, á assignatura de um pacto de não-aggressão como um reconhecimento facto, por parte dos soviets da nova ordem asiatica, anunciada na tripice alliança entre a Allemanha, Italia e Japão.

O corrispondente da agencia «Domei», em Moscou communica que ha indicios de que a Russia se congraçará com o Japão e Allemanha, para depois concentrar todos os seus esforços em sua politica meridional com vistas sobre o Irã e a Turquia.

Informa a mesma agencia que foram as seguintes as declarações feitas a imprensa recentemente pelo secretario da embaixada japoneza em Moscou, sr. Masaomi Yoshitomi:

«A Gran-Bretanha, os Estados Unidos, a Allemanha e a Italia estão estudando a cortejar a Russia. Todavia, é pouco provavel que a U. R. S. S. se incline para o lado britanni o. Devemos nos mostar vigilantes em torno dos esforços dos Estados Unidos, que dispõem de abundantes provisões de guerra, taes como coore e gazolina».

NOTICIARIO ESTRANGEIRO DO «NOTICIAS DO BRASIL» E' FORNECIDO PELA AGENCIA TELEGRAPHICA «DOMEI» JAPONEZA

日本人御國自慢の種……
金魚の御話
近頃伯國でも斷然好評

我等の眼には稀しい熱帯魚もブラジルでは原産地だけに一向持てないよう、斯然金魚が評判を取ってゐるから面白い、外人に説明し得る知識は一同持ちたいものの大体下記の程度判つてゐれば物識りの内に入る筈

日本における金魚の歴史はそうとう古い、一説には約四百年前ごろ明の商船によつて初めてわが國にお目見得し、それを和州郡山藩で養殖したものだといはれてゐる、金魚の家系を調べてみると御先祖は鮒であり、專ら觀賞の目的をもつて、鮒から人工的に變化されたもので、從つてあのおしやれな姿態こそ金魚の生存の全目的といふわけで、昔は體を大きくしたり、尾形をよくすることに專ら苦心したが、今日では魚形や色彩が專ら觀賞の主眼に變化し初めて、紅白それぞれのおしやれ姿をまとひはじめる金魚の色は太陽の光線と重大關係を持つてゐる光線のよく透る淺い水に棲むものほど色彩の鮮やかさを見せるのが普通だ

◇

通常われわれに親しいものではワキン、リュウキン、ランチュウ、デメキン等がある、ワキン（和金）は原種たる鮒に最も近い形を持ち、體の纖細に長いその體に尾鰭の小さいもの成長は至つて早く育つにつれて赤白の斑紋ができる、リュウキン（琉金）は一名オナガ（尾長）體長く、尾と鰭がひどく發達して體長より長い、これは德川時代に琉球から渡つてきたものである

ランチュウ（蘭鋳）は體が円く、腹部がふくれ、背鰭は持つてゐない、尾鰭は三ツ尾か四ツ尾、背つにつれ黄金色の赤色を呈してくる、年とると頭に不規則な肉瘤ができる、かうなると改めてシシガシラ・ランチュウと呼ばれる、一般にランチュウは性弱く、甚だ不活潑、大低頭を下にして、遊立ちの姿勢で泳がないのが普通で最も鑑賞にデメキン（出目金）これは日清戦役後支那から輸入されたもので一名シナキンともいはれ生長するにつれ御存じの如く眼が飛び出してくるどういふものか鮒だにかみ屋で群泳するのが嫌ひだ

ランチュウ、牛に限らず脈も良い點は疑ふ餘地がない

伯國農務省で最も注目の的は纖維植物であろう、所謂纖維植物で印度品無き現在大變な人氣を集めてゐる、本欄でも再三紹介したが、これが在まだ餘程飛躍的に發展する、一アルケーリの生産何キロの市價何程で、儲けこれ〳〵とボタ餅で呼べば呼ぶ様な話であるが、その製造機械、消費市場買手等詳細な研究をせずにウッカリ着手すると飛んでもない疲れ儲けとならないとも限らない、着手する以上大きな組合を作り相當以上の量を纏めることが第一條件で食糧作物の如く自家で消費しの効かない物であることを充分銘記しなくてはならない、纖維作物の如き低生産價値は千アルケーリと纏まつた量を生産しなければ引合はない、所謂工藝作物は拔群の収益は絶對に不可能である

ミリヨ全穂粉
暑氣拂ひの餌

性の變化とともに、金魚の衣裳もスタイルも變つてゆくわけで由來園藝植物の常に妙を得てゐるわが日本人は金魚の化育變成法についてもすこぶるすぐれ、現に數多しい變種珍種を作り出して續々海外へ輸出してゐる、次に金魚の赤ちやんだが、いくら金魚だつて卵から孵つたトタンから別段赤いわけではない、普通の魚の色と變つたところはないが、これが二日ほどすると次第に變化し初めて、紅白それぞれのおしやれ姿をまとひはじめる金魚の色は太陽の光線と重大關係を持つてゐる光線のよく透る淺い水に棲むものほど色彩の鮮やかさを見せるのが普通だ

◇

通常われわれに親しいものではワキン、リュウキン、ランチュウ、デメキン等がある、ワキン（和金）は原種たる鮒に最も近い形を持ち、體の纖細に長いその體に尾鰭の小さいもの成長は至つて早く育つにつれて赤白の斑紋ができる、リュウキン（琉金）は一名オナガ（尾長）體長く、尾と鰭がひどく發達して體長より長い、これは德川時代に琉球から渡つてきたものである

ランチュウ（蘭鋳）は體が円く、腹部がふくれ、背鰭は持つてゐない、尾鰭は三ツ尾か四ツ尾、背つにつれ黄金色の赤色を呈してくる、年とると頭に不規則な肉瘤ができる、かうなると改めてシシガシラ・ランチュウと呼ばれる、一般にランチュウは性弱く、甚だ不活潑、大低頭を下にして、遊立ちの姿勢で泳がないのが普通で最も鑑賞にデメキン（出目金）これは日清戦役後支那から輸入されたもので一名シナキンともいはれ生長するにつれ御存じの如く眼が飛び出してくるどういふものか鮒だにかみ屋で群泳するのが嫌ひだ

今年は何を作る？
油斷ならない魔手
「迷ひを惡用する勿れ」

今年は一部農家で用して金儲けを企む惡商人が少く無いから警戒の必要があこ伯人仲間の話に何をやるか迷つたら牛を飼へとある、最も安全な農業あるものゝ一つとして奨勵に値することゝあろう、所謂纖維植物で印度品無き現在大變な人氣を集めてゐる、本欄でも再三紹介したが、これが在まだ餘程飛躍的に發展する、一アルケーリの生産何キロの市價何程で、儲けこれ〳〵とボタ餅で呼べば呼ぶ様な話であるが、その製造機械、消費市場買手等詳細な研究をせずにウッカリ着手すると飛んでもない疲れ儲けとならないとも限らない、着手する以上大きな組合を作り相當以上の量を纏めることが第一條件で食糧作物の如く自家で消費しの効かない物であることを充分銘記しなくてはならない、纖維作物の如き低生産價値は千アルケーリと纏まつた量を生産しなければ引合はない、所謂工藝作物は拔群の収益は絶對に不可能である

大輪のあさがは
今が播き頃です

夏の朝の眼ざめに、何よりの色鮮かな大輪朝顔も今月までは蒔き頃なので、初めての方に最も簡單な栽培法を申しませう

大輪（たいりん）

の種としては、實葉セミパがよいでせう。箱か五寸位の鉢への植の目を下向きに蒔き、土を三、四分かけ、もし發芽を早めるなら日から一分位離れた所の表皮に傷をつけて、水を澤みやすくします 七—一〇日位發芽し、子葉が十分開いたら、根を切らぬやうに注意して、一本植にするか、二本の苗を植ゑるかは、鉢の大小によつて定めます

七、八寸の素燒鉢に植ゑるかへこの時ヒゲ根以外の茎葉の根を切り捨てゝ、ヒゲ根を澤山出るやうにします 苗は五分位出して、後は深く植込みます。この時の土は、藥の腐つた土五、腐葉土三、泥土三、個土三、川砂三、藥灰一の割りに混ぜますが、腐葉土六、泥土二、川砂二位にしてもよろしい。

日當（ひあた）

りのよい所におけば、葉繁の悪いのは弱として、大抵は七葉又は八葉目に蕾が出ますから本葉三枚程して上を摘んでしまふと、二本の脇に蕾が出ますから、これを見て實に理想的のものである

肥料（ひりょう）

は、種蒔きの時に作つておきます。水肥け水一斗にモミガラ一升五合の割にして、カメの中に入れ、一ヶ月以上腐敗させて、また乾肥はマメカス一升、佛粉五合、土五合の割に一鉢に茶匙二杯位埋め、これから初めて咲く蕾を見るまでに、一回水肥を與へますが、その後も株の弱りや、花の小さくなつた時などに時々肥料をやります

今年の暑さが激しくなるに連れ、家蕃は強い御のため下痢、衰づりを起し易い、この際全穂粉は特殊の効き目を出す、肥育を目的とせぬブーロ、乳牛、繁殖、鶏の基本飼料として實に理想的のものである

今穂粉の分析は

水分	一五%
灰分	一・五%
蛋白	八・五
纖維	六・六
脂肪	三・五

右の纖維だけがフバーに無くこれが消化管を通過に刺戟して腹工合を良くするわけである

コ、はパン焼のレシヤに使ふ位が纖の山である、然しこれも使ひ方によつては良い家畜の餌となる、使ひ方は特製の粉篩に掛けて、粒のついた儘全部粉にする、これを全穂粉と稱しサンパウロ附近では低に賣り出してゐる

世紀の英雄
（五十一）
街の灯はるか（一）

（挿絵）

自分と別れて何處へ住むかといふ篤子の質問は、岩田にとつては意表に出たものだ、牧にとつては痛い所であつた實は、牧は郷田実惠子の家に下宿することになつてゐる、いや、既に昨日からそこへ住んでゐるのだ

「……勿論、貴女と住んでゐた時のやうに豪華なアパートなど住めやあしない僕は小石川に安い素人下宿を探して来たのでそこへ住むつもりだ」

「一人で？」

「當分、一人だ」

「嘘つき。今はの際になつてもそんな嘘をつきたいのかしら。心配しなくてもいゝわよ別れてあげるから。だけど、どうしてさう嘘をつきたいんだろ

ちやんとネタは上つてゐるのよ。あんた、あの実惠子の家へ行くのぢやないの。知つてゐるわたちまち空氣が險惡になつてしまつた。牧たるや、返す言葉もなくしよんぼりとして下を向いてしまふのである。篤子の喋つてゐる間は、手のつけやうもなかつたので、岩田は默つてゐたが、かうしてはゐられないと思つて口を入れた。

「僕は何も牧の縁談を、お互つまりをする必要は無いと思ふが

ねえ、篤子君、どうせ別れるときまつたらどんな女と一緒にならうが、かまわないぢやないか。二人は離婚に別れんだよ」

「あたし達だつて言ふこと、充分あるわよ」

やうやく、別れ話といふ厭ば、男つてものは、この女から離れると決定つたら女の方でどうにだはたしてもどうにもならないものだ。清く別れるんだね」

と、言つてゐることは篤子にわかるものゝ、感情ではなかく〳〵にうなづけないらしいでも、朋氣な彼女のことだからちや、あんたの荷物、まとめてアパートの事務所へ預けておくから誰にでもとりに來させたらいゝわ」

うん、誰かに行つて貰ふかも知れない」

一層、美惠子つてひとに來させなさいよ」

こんな皮肉で、別れ話のケリはついたのであつた

岩田は、話を切り上げるのはこゝだと思ひ

ちや、話はついたね、今後はみんな友人同志だと。君は篤子君に借金があるのだからしづゝでも返済するんだ

牧は素直に頷いてみせた。

ときに君、離婚の内部の事についてもめてゐる事があるのだけれど知つてゐるかい

二人のどちらへ話しかけるともなく言つた

この間、出征した真城京平君の手當ては、半分になつてゐるんだつてね。出征中、半分なんて話は無い筈だと思ふ宮城君つて感心な人物で、故郷のお母さんにあのとほしい中から仕送りをしてゐたらしいんだ。それが、半分なのでとまつてしまひ、おつ母さんが大變困つてゐると言ふんだよ」

祖國の味で
故國へ奉仕
HSK
濱名湖印
焼蒲ぎやう
濱名湖食品株式會社

ADUBO GUERREIRO
Com. de Agricultura, Imigração e Colonização
中央事務所：São Paulo
R. Libero Badaró; 39
(CAIC)
電報：CAIC
電話：2-3175, 支線 46
ANTONIO PRADO JR. HEITOR FREIRE DE CARVALHO, EDMUNDO N. VARRO DE ANDRADE

ゲレイロ肥料は農耕地に必須缺く可からざる優秀なる全要素を含有し更に六一%以上の有機質を含み土地に容易に融合して腐植土となる。有機質なくして沃土なく、化學肥料の施肥にも支障を來す。我肥料に就ては以下の世界的權威ある諸大家が實證されたり。亜熱帯地質研究家ドトール。パウロ・バジエレーロ、合理施肥技術大家カンピーナス農事試驗場技師ドール・テオドレッド・デ・カマルゴ、劇勵邦農事局農業化學研究部長ドトールマリオ・サライーバ

サンパウロ、パラフヂ驛積込み
一トン當り値段
一トンから一〇トンまで 三〇〇粁
十一トンから二五トンまで 二百九五粁
二六トンから五〇トンまで 二九〇粁
五一トンから一〇〇トンまで 二八五粁

發着廣告

日本ぢ丸 サントス發 十一月 七日
ヘ 横濱着 十二月 六日
日本ぢ丸 サントス發 十二月 六日
ヘ 神戸着 一月 二日
日本ぢ丸 神戸發 九月 十三日
ヘ サントス着 十月 廿二日
日本ぢ丸 神戸發 九月 廿七日
ヘ サントス着 十二月 五日

南阿丸一等船客のみ御引受申上ぐべく候
詳細は弊社又は代理店へ

サントス 伯剌西爾ニ阪商船株式會社
(Soc. de Navegação Osaka do Brasil Ltda)
Rua Cidade de Toledo, 34 Santos

聖市 伯剌西爾ニ阪商船會社出張所
(Soc. de Navegação Osaka do Brasil Ltda)
Filial de São Paulo
Rua da Quitanda 82 - São Paulo

桑 WILSON, SONS & CO. LTD.
港 Avenida Rio Branco 37 Rio de Janeiro

伯國大阪商船會社